

『あなたもうつ病』キャンペーン？

宮岡 等

「製薬メーカー主導の『あなたもうつ病』キャンペーンってどう思う？」と同僚医師に冗談まじりに聞かれたことがある。たしかに最近、新聞や雑誌、Webなどで、「うつ病は誰でもかかる病気だが、適切な薬物療法で治る。うつ病を早くみつけて治療しましょう」式の、一見、啓蒙とも広告ともわからないような記事を目にする機会が増えた。たしかに発信元やスポンサーに抗うつ薬を発売している製薬メーカーが関係していることが少なくないらしい。

そんなことを気にかけている時、『精神疾患はつくられるーDSM診断の罠』（日本評論社）（註…DSMはアメリカ精神医学会による精神障害の診断基準）という翻訳本を見つけた。記述はかなり極端であり、そのまま受け入れることができな部分も多い。ただ「うつ病の診断基準を甘くする、あるいは閾値下うつ病や軽症うつ病の概念を用いることによって、抗うつ薬処方促される」、「こんなやり方では人生の正常なアップダウンまで病気にされる」、「製薬産業のマーケットシェアの拡大を考えばこんなことは当然だ」などの意見は興味深い。その背景にはDSM作成過程における製薬メーカーの多大な経済的援助も関係しているらしい。

日常臨床の印象をいえば、うつ病の早期発見、早期治療の実現までは距離が遠い。一方、精神科医以外の医師でも処方しやすい抗うつ薬が発売されたかのような情報のせいもあるのか、安易で不適切な抗うつ薬処方は増えているように思う。

もともと医療は商売と離れたところで動き、近づいてはいけなと信じられてきた。しかし昨今の自己負担の増加、株式会社の医療への参入や自費診療などは、患者も医師も経済面まで考慮して治療を選択せねばならない時代に入ったことを示している。知らないうちに商売に巻き込まれていたなどということのないように、患者と医師がよく話し合っ医療を進める必要がある。